

第1学年 英語科学習指導案

日 時 平成23年10月28日(金) 5校時

学 級 1年C組

(男子17名、女子14名、計31名)

場 所 一関市立千厩中学校1年C組教室

授業者 教諭 齊藤 秀樹

1 単元名 『Unit 7 カナダの学校』(New Horizon English Course Book1)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、カナダの中学生ビルとのテレビ会議による対話が中心となっており、「異文化理解」と「情報教育」を意識した内容である。Part 1では、テレビ会議を使った授業で、カナダの中学校に通うグリーン先生の弟のビルと日本の中学生たちが英語を使って交流を行い、Part 2では、カナダと日本のそれぞれの時刻と天候を話題にしている。Part 3では、日本の中学生がカナダの中学校の授業時数や時間について質問をしている。そしてPart 4では、日本の中学生が放課後の活動やビルの部屋にある物について質問している。このように本単元は、相手から情報を得て、その情報を共有するというねらいをもっており、コミュニケーションを深める言語活動をする必要がある。そのため、wh-疑問文の言語材料を用いた応答形式を理解、活用させる必要がある。また、学校生活についての英語表現もあるので、自分のことに関わらせた言語活動ができる内容となっている。

(2) 生徒について

素直な生徒が多く、授業態度は落ち着いている。インタビューやペア活動などの言語活動にも積極的に取り組み、英語学習に意欲的である。しかし、一部の生徒はリスニングや簡単な英問英答はできるものの、「書く」ことについては定着していない面が定期テストや授業中に行う書き取りテストで見受けられる。そのため、音読指導を個人やペアで行う回数を多くし、また、書き取りのテストを継続して行いながら、音声と文字が結びつくよう努めているところである。英語に対する苦手意識を持たせないよう、興味関心を持たせる題材を提示しながら、今後も英語の学習に取り組ませたい。

(3) 指導について

前のUnitで学習した、「人について紹介したり、たずねたり、それに答えたりする」ことができる学習を踏まえた言語活動を取り入れながら、wh-疑問文の応答や学校生活に関わる英語表現を学習させたい。本単元においても、音読する時間を十分に確保しながら、音と文字を結び付ける思考の確立を目指したい。また、ペア活動等を行いながら英語に慣れ親しませながら、新出の英語表現の定着を図っていききたい。さらに、自分の考えや気持ちを英語で表現できるよう、既習事項を使った英語の文を友だちに読み伝え、相互に理解するコミュニケーションの場面を持たせていききたい。

3 英語科における「活用を意識した学習活動」のとらえ

英語科においては、以下のような学習活動を、「活用を意識した学習活動」ととらえる。

(1) 既習事項を基に、英語を読んだり、聞いたりしたことを理解する学習活動。

(2) 自分の考えや気持ちを、英語で話したり、書いたりする学習活動。

4 単元の指導目標

(1) 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

本文の内容や wh-疑問文の運用について関心をもち、積極的に言語活動を行いながらコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 【外国語表現の能力】

相手に伝えたいことを正確に伝え、聞かれたことに対して適切に応答することができる。

(3) 【外国語理解の能力】

教科書の内容や、相手の話したり書いたりした英語を聞いたり読んだりして、相手の考えを理解することができる。

(4) 【言語や文化についての知識・理解】

wh-疑問文の応答の形、意味、用法を理解し、運用することができる。

世界各地の時差、カナダの学校や社会における日常生活や文化や習慣などを理解できる。

5 単元の指導計画（7時間扱い）

単元	パート	時間	学習内容	評価計画				「知識・技能の習得」の場面	「活用を意識した学習活動」の場面
				コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解		
Unit 7 カナダの学校	Part 1	2	Who…?と応答の形、意味、用法 【本時1時間目】	◆Who…?とその応答について関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	◆Who…?に対する応答文を既習の表現を取り入れながら、書いたり話したりすることができる。	◆教科書の内容や、相手の話したり書いたりした英語を聞いたり読んだりして、相手の考えを理解することができる。	◆Who…?と応答の形、意味、用法を理解することができる。	○新出語句を練習する。 ○Who…?とその応答のパターン練習を行う。 ○ペア活動等を行う。	★新出、既習事項の表現を用いながら英文を作る。 ★ペア活動で話したり聞いたり書いたりする活動をする。 ★暗唱に取り組む。
	Part 2	2	What time…?と応答の形、意味、用法	◆What time…?とその応答について関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	◆What time…?とその応答文を用いて、書いたり、話したりすることができる。	◆教科書の内容や、相手の話したり書いたりした英語を聞いたり読んだりして、相手の考えを理解することができる。	◆What time…?と応答の形、意味、用法を理解することができる。 ◆世界各地の時差について知ることができる。	○新出語句を練習する。 ○What time…?とその応答のパターン練習を行う。 ○ペア活動等を行う。	★新出、既習事項の表現を用いながら英文を作る。 ★ペア活動を行う。 ★暗唱に取り組む。
	Part 3	1.5	学校生活についてたずねたり、それに答える	◆本文の内容を正しく理解できる。	◆学校生活についてたずねたり、応答する文を書いたり、話したりすることができる。	◆教科書の内容や、相手の話したり書いたりした英語を聞いたり読んだりして、相手の考えを理解することができる。	◆カナダの学校生活について理解することができる。	○新出語句を練習する。 ○ペア活動等を行う。	★新出、既習事項の表現を用いながら英文を作る。 ★暗唱に取り組む。
	Part 4	1.5	カナダの国技であるラクロスやドリームキャッチャーについて知る。	◆本文の内容を正しく理解できる。		◆教科書の内容を理解することができる。	◆ラクロスやドリームキャッチャー等の文化について、理解することができる。	○新出語句を練習する。	★暗唱に取り組む。

6 本時の指導

(1) 目標

- ① Who…?に対する応答文を、既習の表現を取り入れながら、話したり書いたりすることができる。
(外国語表現の能力)
- ② 相手の話したり書いたりした英語を聞いたり読んだりして、相手の考えを理解することができる。
(外国語理解の能力)

(2) 本時の構想

本時の授業では、Who…?の意味と形、応答について学習する。パターン練習を十分に行って定着を図りたい。(習得)

また、視覚資料を使った活動を取り入れて、既習の英語表現で相手に説明する文を考えさせ、友だちとの相互発表等の活動に発展させていきたい。(活用)

(3) 本時の評価規準

	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒の手だて
外国語表現の能力	Who…?に対する応答文を、既習の表現を工夫しながら、積極的に話したり書いたりすることができる。	Who…?に対する応答文を、既習の表現を取り入れながら、書いたり話したりすることができる。 評価①	既習の学習事項に触れながら、英文が作れるよう支援する。
外国語理解の能力	相手の話したり書いたりした英語を聞いたり読んだりして、相手の考えを正確に理解することができる。	相手の話したり書いたりした英語を聞いたり読んだりして、相手の考えを理解することができる。 評価②	語句や用法を説明する支援を加えながら、内容理解を促す。

(4) 展開

段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点(◎)、活用の場面(★) 習得の場面(○)、評価(■)
導 入 15 分	1 あいさつ	1 元気にあいさつをする。	○既習の学習内容の確認
	2 帯活動	2 W-up を兼ねて既習の英語表現を復習する。	
	3 学習課題の設定	3 学習課題を把握する。	
【学習課題】 Who…?とその応答ができるようになろう			
展 開 30 分	4 課題解決のための練習	4 Who…?の意味、形、用法を知り、口頭練習をする。	○Who…?の意味、形、用法 ◎発音、イントネーションに留意
	5 言語活動	5 Who…?の応答文を使った言語活動を行う。 (1) Who…?に対する応答文を作る。 (2) 友だちに質問、応答する。 (3) 情報をまとめる。 ・ワークシートにまとめる。	★Who…?に対する応答文 ◎教科書、ファイル、辞書を参考にさせる。(活用①②) ◎机間巡視 ■Who…?に対する応答文が書けたか。(評価①) ■友だちと Who…?を使った会話ができたか。(評価①②) ■友だちの話した内容が理解できたか。(評価②) ◎机間巡視
	6 発表	6 Who…?の応答文を発表する。	■友だちの発表の内容が理解できたか。(評価②)
終 結 5 分	7 まとめ	7 本時のまとめを行う。	◎ワークシートの回収
	8 次時の予告	8 次時の予告を行う。	
	9 あいさつ	9 元気にあいさつをする。	